

名古屋大学博物館友の会 NUM 友の会ニュースレター

No. 66

2022 年春号



シアノクロークス *Tecophilaea cyanocrocus*
テコフィラエア科

巻頭言にかえて

私と NUM 友の会

松本晃子

NUM 友の会に入ったきっかけは、ボタニカルアートサークルでした。花をじっくり観察し、描く作業はとてもアナログです。コンピュータで絵画を作成できるデジタルの時代ですが、デジタルもプログラムを作るのは人の手です。自分の頭で考え、手で描く作業からは、物事の基礎に立ち戻るような感覚を味わうことができました。

サークル活動を経て、現在は会計として皆さまからの会費を管理しています。

今年度は 180 名以上の方から会費の納入をいただきました。コロナ禍で友の会の活動が制限される中、今年度も変わらぬご支援をいただき、誠にありがとうございます。

以前のように友の会として催し物を開催できる日を辛抱強く待ちたいと思います。



トキワマンサク *Loropetalum chinense* マンサク科

NUM 友の会の総会について

なかなか集まる機会が持てず、総会を開催するのも難しい日々です。事務局で検討した結果、今年度は、書面による総会を開くことにしました。活動報告、会計報告など来号（2022 年 7 月発行）に掲載しますので、その節はご意見をよろしく願います。

4 月に入り、皆様、お忙しい時期とは思いますが、会費納入まだの方は、どうぞよろしく……。

会員随想

ポプラチェンバロのこと

にしぐちさちこ

昨今は新型コロナウイルスの影響で旅に出かけにくい状況です。私は家で過ごす時間が多くなりました。そんな時ふとアルバムを眺めていて旅の記憶をたどることにしました。数年前、北海道浦河在住の知人を訪ねうれしい再会をしました。その後、かねてより見学を望んでいて北海道大学総合博物館、北大植物園へと足をのびしました。北大植物園構内(2013. 6. 27)



きっかけは、かの有名な構内のポプラが 2004 年 9 月の台風 18 号の強風で多数倒れ、その後、その木によって”ポプラチェンバロ”が製作されたことをニュースで聞いたことにより、そしていつかそのチェンバロを見たいと願っていたことが根底にありました。

2016 年 6 月願いが遂に叶い、館内で”ポプラチェンバロ”を見ることができたことは感激の一言でした。ここで学んだことは、ポプラチェンバロ「セイヨウハコヤナギ」は、バロック時代にチェンバロの材料として使われていたこと。そしてそこに添えられていた銘文には「ポプラ古の大志・札幌の地にて育てられ嵐によりたおれ、2006 年ここに蘇る」と書かれていました。そして偶然、その時間帯にボランティアによるお話と演奏を聴くチャンスも与えられ、とにかく短い時間ではありましたが忘れられない思い出の一つとなりました。演奏ボランティアの方と(2013. 6. 26)



万葉の花 その4 アセビ(アシビ)

三矢保永

磯の上に 生ふる馬酔木を 手折らめど 見すべき
君が ありと言はなかに

おおくのひめみこ
大伯皇女 万葉集巻二 166

大意 岩のほとりに生えている馬酔木を手折ろうとして
はみるけれど、これをお見せすべき弟の君がこの世に
いるとは、誰も言ってくれないではありませんか（ほん
とうに逝ってしまったのですね）。

注 馬酔木は万葉集中に十首詠まれており、可憐な花
として、愛でられていたことがうかがえます。題詞によ
れば、（謀反の嫌疑により死を賜った弟の）大津皇子
を、二上山頂の墓陵に移葬したときに、あるいは左注
では、（斎王を務めていた）伊勢神宮から都へ帰ると
きにこの花を見て、感傷哀咽して詠んだとされていま
す。大津皇子は壬申の乱で大海人皇子側を勝利に導い
た立役者の一人で、文武両道に優れ人望も厚かったよ
うです。姉弟の母は、持統天皇の姉太田皇女で、若く
して薨去されました。歴史に「もしも」はないで
すが、太田皇女がもう少し長生きしておれば、この悲
劇は起きなかったでしょうし、日本の歴史も大きく変
わっていたことでしょう。大伯皇女の深い哀傷に添う
ように、静謐感のある写真を選びました。

参照文献：伊藤博 万葉集釈注 集英社文庫ヘリテージシリーズ



撮影 写真サークル 市枝真木子

Artist Earth (地球は芸術家) 17

カンラン岩のゼノリス (peridotite xenolith)

足立 守

写真の黄緑色の石は主にカンラン石という鉱物
でできているカンラン岩で、地球深部のマントルの
代表的な石です。世界各地で見ついているカンラ
ン岩はどれも黄緑色なので、もし人間がマントルに
たどり着きその石を見ることができたなら、きっ
と若葉の季節を思い出す人も多いでしょう。

カンラン石は色がオリーブの実に似ているので、
英語では olivine (オリビン) です。昔、鉱物名に橄
欖石 (かんらんせき) という難しい漢字が使われて
いたのは、明治初期にオリーブをカンラン (橄欖) 科の
植物と誤解していた名残と言われています。教養部
の授業で橄欖石、緑簾石、翡翠輝石などの古風な鉱物
名に出くわして、岩石学が嫌いになった学生がいた
ことを覚えています。



黄緑色をしたカンラン岩のゼノリス (横約 7cm)

写真のように、マントル起源のカンラン岩が玄武
岩の中に点在しているのは、地下深部で形成された
玄武岩のマグマが地上に上がってくる途中で、マグ
マの中にカンラン岩の破片を取り込んだ結果です。
このようにマグマとは異質の岩石はゼノリス
(xenolith、ギリシャ語で xenos=よそ者、lith=石)
と呼ばれています。

緑色が強く透明感のあるカンラン石は、8月の誕
生石のペリドットになります。ペリドットの原石を
カンラン岩から取り出すには、カンラン岩を熱湯に
入れて石全体を膨張させて鉱物をバラバラにするの
が一番簡単で効率的な方法と聞いたことがあります。
1973年にアフリカ大地溝帯の調査でケニアを訪れた
時に、大地溝帯のカンラン岩からペリドットを集め
て加工していた現地の宝石商の話です。

ウクライナは歌の国

小林身哉

ウクライナ国歌

ウクライナ国歌をお聞きになったことがありますか。短調を主とした美しい曲です。「ウクライナは滅びず」というタイトルも、繰り返される他国の侵略に抵抗し続け、今また悲惨な状況に置かれていることを思うと、なお強く心に刻まれます。

この歌は、ロシア革命がおこった1917年に独立を宣言したウクライナの民族主義者によって作られ、ソビエト連邦に併合されるまで国歌として歌われました。ソ連から独立後、1992年に議会によりウクライナの国歌として復活。2003年には最高議会でウクライナ国歌法案が成立し、歌詞を一部修正のうえ正式に国歌に採用されたものです。

<https://www.youtube.com/watch?v=2LEcx-CGS2E>

ウクライナの音楽教育

ウクライナ音楽研究家の大胡敏夫氏によると、ウクライナはロシア発祥の地でもあるキエフ・ルーシを祖とする古い国で、9世紀末には古代国家キエフ・ルーシが成立し、それが現在のロシア、ベラルーシ、ウクライナの祖となっています。また、1991年に宿願の独立を果たした新しい国でもあります。ウクライナには美しい歌が多く、優れた歌手を輩出する歌の国でもあります。17世紀前半には音楽の高等教育機関が存在し、1738年には歌手養成所が開設され、1773年にはハリコフで声楽・器楽教育が活動を始めました（ちなみにロシアで最初の音楽院がペテルブルクに開設されたのは1862年のことです）。これらの教育機関からロシアのオペラ歌手、宮廷や教会の合唱団員にと、多くの人材が輩出しました。

ウクライナの歌

日本では、ウクライナの歌はほとんど知られていませんが、3拍子の曲が多く、しっとりとした抒情歌がとて多いのが特徴です。代表的なものをいくつか紹介します。

♪「広きドニエプルの嵐」ウクライナ民謡、

タラス・シェフチェンコ詞、合唱団白樺訳
ウクライナを流れるドニエプル河の嵐を歌い、暗い哀愁に満ちた独特の美しさの中に、はげしい雄大な感情を持った曲。第二の国歌ともいわれ慕われている。

♪「小さいぐみの木」ウクライナ民謡、

楽団カチューシャ訳

日本ではロシア民謡として紹介され広く歌われているが、もともとはウクライナの民謡。川を隔てた男女の愛情を歌う。ロシア帝政時代には男女の労働者は職場が分けられていて自由に会えなかったと言われる。

♪「キエフの鳥の歌」ウクライナ民謡、木内宏治訳
秋が来て鳥の群れが飛び去っていく。夜啼きウグイス、白鳥、鶴とみんな飛んで行ってしまふ、という原詩に、惜別の日本語をつけたもの。

♪「月よ照らすな」ウクライナ民謡 ルイセンコ編曲
悲恋の歌

♪「マリーゴールド」スィンハイウスキー詞ヴェルニ
メッチ曲 大胡敏夫訳

遠く離れて住む娘が母を偲ぶ歌。

ウクライナの民族楽器バンドウーラ

ウクライナの民族楽器で、形は日本の琵琶に少し似ていて、棹に張った低音弦と洋ナシ型の胴に張った旋律弦からなる多弦の旋律楽器で金属弦の美しい響きがします。奏者は旅から旅へ世のできごとを歌い、いにしえの英雄談を語り、恋や風刺も歌って生業としたそうです。多くは貧しい盲人でした。日本の津軽三味線の歴史にも通じる話ですね。現在のバンドウーラは1950年ころコンサート用に改良されたもので、形が大きく弦の数も多くなっています。ウクライナの専門学校で学んだナターシャ・グジー、カテリーナ・グジー（お二人とも日本在住）が演奏活動を行っており、Youtubeでも視聴することができます。

写真はカテリーナさんとバンドウーラ。



<https://www.youtube.com/watch?v=IC3ForvMm2Y>

戦火よ止まれ

ユーラシアの大地で育まれた歌をうたう合唱団に所属しています。ウクライナの人々や平和を願うロシアの人々の不屈の歌声が高らかに響きわたる日が一日も早く来てほしい。合唱団は今、ウクライナ支援のチャリティコンサートに向けて練習をしています。

野外観察園 2022 春

吉野奈津子

暖くなり始めれば一気に春がやってきます。今年もボケやキブシは良く咲きました。フクジュソウも2月の終わりごろから咲き始め、今はニンジンのような葉っぱを伸ばし、来春に向けてエネルギーを蓄えています。普段はもっばらヒヨドリの大合唱ですが、今年はウグイスの声を久しぶりに聞きました。すでにどこかで練習してきたようで上手に鳴いています。

シアノクロクスという球根植物を実験のために長く栽培していました。青い花の色素の研究をされている先生の材料で、普段は咲いたらすぐに摘まれて実験に使われるのですが、今年は余りが出たので一般ゾーンに置いて皆さんにも楽しんでいただきました。この植物の難点は小さくて殖えにくいこと。球根は3gあればかなり大きい方で、親指の爪ほどあれば(1.5~2.5g)立派な球根で花が咲きます。葉が枯れたあと掘り上げますが、大きい球根の周りにたまに子球がつく程度であまり殖えず、子球は米粒くらい小さい時もあります。はかりに載せても0gのまま反応しないときも。それでも貴重なので全部保管しておいて秋に植え付けます。カラスにいたずらされて札を引き抜かれたり、そもそもうまく育てられずに困ったこともありましたが、何とか乗り越え今に至ります。なかなか苦労した植物なので、春一番に真っ青な花を見ると感慨深いものがあります。



シアノクロクスの球根

マス目一つが1cm



ボケ *Chaenomeles speciosa*バラ科



キブシ *Stachyurus praecox*キブシ科



アケビ *Akebia quinata*アケビ科

名古屋大学博物館友の会ニュースレター 2022年4月18日発行

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付

電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X : 052-789-5896 (博物館事務室)

Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口

ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan

年会費 1000円 (4/1~3/31) 10/1~3/31 に入会した場合は 500円 (次年度は 1000円)

家族会員制度あり (同居の家族 1名まで年会費を免除)

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会
他銀行からの振り込み 店名〇八九 (ゼロハチキュウ) 店番 (089) 当座 0166807